

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	LUPE		
○保護者評価実施期間	令和8年3月23日		令和8年3月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和8年3月23日		令和8年3月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援(未就学児)から放課後デイサービス(学童期)と進学しても、継続して利用することができる	・療育方法の変化をできるだけ少なくし、安心して過ごせる環境を提供する。 ・環境に慣れるため、進学時は保護者の方のお迎え時間を早める	・今後、進学先や就職先等の環境変化を考慮して支援を考える(数か月前から徐々に準備を行っていく)
2	・粗大運動や机上活動も両方取り組める土台がある ・専門職(理学療法士と作業療法士)を配置し、より専門的な視点で評価を行う事ができる	・「静」と「動」を意識してプログラムを構成している。 ・「静」のプログラムは、製作や机上練習、学習など静かに過ごす時間。 ・「動」のプログラムは、運動療育や戸外活動など動きを入れ、身体を使う活動、体力作りなど	・プログラム内容は毎年大きく変わる事はせずに、子どもたちの自主性を見ながら支援の組立を行う
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流がない	地域と関りをもつ機会がない	・地域の行事に参加する等、子供たちと交流できる機会をつくる ・地元の大学や会社へ、社会見学に行き交流の機会をつくる
2	保護者同士の交流が不足	実施する為の、計画や企画の実行が出来なかった	・実施に向けた計画や企画の立案を年度初めに行う(親子会、保護者のみの交流会、や勉強会)
3	2つのサービス(児童発達支援、放課後等デイサービス)が同時に行われる学校休校日の午前中は、施設が手狭になる	・児童とスタッフの人数が増える ・スタッフ数に限りがある為、午前中は放課後等デイサービスの子ども達が施設以外の場所で活動を行える状況ではない	・学校休校日でも活動に支障がでないよう、サービスの整備を行う(児童発達支援の振替など)